

# 別中ありがとう

別所中学校学校通信  
2022年度 NO.5  
7月22日(金)発行

## 小学校・中学校の児童生徒交流

7月6日に行われた小学校の縦割り班活動(なかよし班活動)に中学校1年生も参加し、一緒に活動しました。各班の活動の中で中学生が絵本の読み聞かせをしたり、6年生が中心となるゲームや遊びのサポートをしたりしながら、小学生と中学生が交流しました。これは小学校の6年間と中学校の3年間、義務教育といわれる9年間を一体として考えようとする取組のひとつとして、児童生徒たちに小学校と中学校のつながりをあらためて感じてもらうことをねらいとしています。その中で1年生の目標は、「小学校高学年や自分たちのいいところを見つけよう。」でした。一部ですが、交流後の振り返りを紹介します。

### 【6年生の時と違った発見はありましたか？】

- ・小学生と交流をすることで中学生だということをしつかりと確認しなおすことができました。
- ・小中場所は離れているけれど仲がいいのはとてもいいことだと思ったから。これをきっかけに中学校楽しみや中学生いいなと思ってもらえたらとてもいいと思いました。



### 【小学校高学年の良いところに気付くことができましたか？】

- ・僕が小学生のときと違ったことの気遣いがみんなできているし、大きな声で話してくれるから、自分もちろ聞きとりやすいしあまり話を聞いてくれない子でもちゃんと耳にはいって、とても通じやすそうに感じたことです。
- ・班の子を楽しませたり、困っていたらすぐに傍によってあげていたりしていたところです。



### 【自分や周囲の友だちの良いところを見つけることができましたか？】

- ・中学生からアドバイスでみんな後ろを見てうなずいている人もいた。
- ・同じ班の子は、場を盛り上げようとしていたし、一緒に活動した小学生の子たちともしっかり話し仲よくなっていたところ。読み聞かせでもそれぞれが工夫などをして頑張っていた。

## 《保護者・地域の皆様へ》

何とか学校行事等、当初の計画に沿った1学期を送ることができました。修学旅行や校外学習をはじめオープンスクールや地区懇談会などご協力ありがとうございました。今回は1学期に行った小・中学校の交流を紹介させていただきましたが、別所小学校と別所中学校は三木市が進めようとしている9年間を見通し系統性と連続性を持った小中一貫教育の実践推進校として研究を進めています。2学期にも文化祭に小学校6年生を招待する計画を進めています。こうした児童生徒の交流と共に、教職員も小中一貫教育への理解を深める研修に取り組んでいます。これまでも小学校6年生と中学校1年生をつなぐ小中連携を図ってきましたが、一歩進んで小中の接続部分だけでなく、就学前教育を土台とした9年間を一体的に捉えた視点から教育活動を見直します。

新型コロナウイルス感染症の状況が心配ですが、別所地区で育つ児童生徒が夏休みを元気に過ごし2学期以降どんな成長を見せてくれるか、楽しみにしています。

学校長 坂田 直裕